

# 自分の仕事に誇りを持てる職場

## 総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

私が入省した1985年は、通信事業の改革法案が施行され、電電社が民営化しNTTが誕生した年です。これから通信分野が大きく変わっていく中で、通信によって豊かで便利な国民生活を実現する政策立案に国家公務員として携わりたいと思い、当時の郵政省を志望しました。また、当時は郵政民営化前でしたので、国民生活に身近な郵便局（当時の郵便局は国営（郵政省）でした）に携われることにも魅力を感じました。

他にも放送や電波など幅広い分野の業務がありますが、たくさんのやりがいのある業務に携われることで、自分の仕事に誇りが持てるのではないかと思います。

## これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

どの業務も苦労はありましたが、同僚に恵まれ、楽しく仕事をさせていただきました。その中でも、全国どこでも電話が繋がるようにするためのユニバーサルサービス基金制度の創設に携わり、より便利で安心できる暮らしを支えるために、国として何をすべきの議論を交わした日々はとても印象に残っています。

また、南米にある在パラグアイ大使館への出向も経験しましたが、情報通信だけでなく、医療や農業など様々な分野の資金

協力に取り組み、国家公務員としての視野が広がりました。現地での生活も貴重な経験で、印象に残っていることがたくさんあります。



## 現在、携わっている業務について教えてください。

私の在籍する北陸総合通信局は、情報通信行政を所管する総務省の地方の窓口として、北陸3県（富山県、石川県、福井県）を管轄しています。地域が必要とされる施策をつくるためには、地域のニーズの把握が欠かせないので、日頃から、自治体や企業等様々な方との意見交換を行っております。また、総務省の地域の営業マンとして、地域視点に立った総務省施策を隅々まで届けるための活動を行っています。

また、石川県の観光特使も務めています。酒と魚の美味しい石川県に是非お越し下さい。

## 情報通信分野での総務省の役割を教えてください。

総務省の情報通信分野は、通信、放送、郵便、サイバーセキュリティなど、国民生活に密着した幅広い業務を担っています。近年では、新型コロナウイルス感染症をきっかけに日常生活が一変し、オンライン授業やテレワークなどでICTを身近に感じる機会が多かったと思います。今後の「新たな日常」を構築するには、社会全体のデジタル化が重要なカギとなります。そのためには、光ファイバの整備、遠隔医療等のICT利活用の推進、最先端の5G、AI、DXなど、全ての国民に質の高い情報通信サービスを提供できるようにすることが総務省の役割です。

## 情報通信分野でのやりがいについて教えてください。

情報通信分野の仕事は、インターネットやスマートフォンなど国民生活の基盤となるものです。そのため、プレッシャーはありますが、国民の皆様の役に立っていることを実感するような仕事や達成感が得られる仕事がたくさんあります。また、情

報通信分野は技術の進歩に合わせて、知識をアップデートする必要がありますが、それと同時に、新たなことにチャレンジできる分野でもあります。デジタルネイティブの皆さんが、これまで身につけた知識や経験を活かしながら、より良い国民生活を創造することは、確かな成長とやりがいを感じることができると思います。

## 受験者へのメッセージをお願いします。

私が北陸総合通信局長として常に考えていることは、「それぞれの職員が自分の仕事に誇りを持てるようにしたい」ということです。総務省には、情報通信に限らず多様な仕事がありますが、どの仕事も国民生活をより良くすることにつながるものです。「国民生活をより良くしたい」、「誇りを持って働きたい」という志がある方、ぜひ一緒に働きませんか。



北陸総合通信局長

蒲生 孝

Gamo Takashi

金沢城公園にて撮影  
背後の建物が、北陸総合通信局が入居する金沢広坂合同庁舎

## 入省後の略歴と職務内容

